

令和3年度 長野県食と農業農村振興審議会 木曾地区部会 議事録

令和3年8月2日(月) 午後1時30分から、木曾合同庁舎講堂において令和3年度長野県食と農業農村振興審議会 木曾地区部会を開催しました。

1 出席委員 五十音順 (敬称略)

大久保和典 委員 木祖村西山地区活動組織代表
奥牧 宏明 委員 木曾郡農業委員会協議会長
黒内 拓美 委員 和牛繁殖・肥育一貫経営 (先進農家)
塩澤 郷子 委員 ふるさと体験館 きそふくしま職員
志水 敏春 委員 木曾農業協同組合野菜生産部会長
田中 佑季 委員 木曾広域連合 (移住交流推進員)
田屋 万芳 委員 木曾農業協同組合代表理事組合長
富井 聡美 委員 女性農業委員 (消費者)
二宮 美香 委員 加工施設 (元地域おこし協力隊員)
野口 廣子 委員 長野県農村生活マイスター木曾支部長

2 次第及び議事録

(1) 開 会

(2) 神事 正實 木曾地域振興局長 あいさつ

(3) 部会長選出

部会長 田屋 万芳 委員 木曾農業協同組合代表理事組合長

(4) 会議事項 (議長 田屋 万芳)

ア 第3期長野県食と農業農村振興計画と木曾農業の概況について (資料1)

(質問意見はなし)

イ 令和2年度木曾地域実績について (資料2)

(質問意見はなし)

ウ 令和3年度木曾地域計画について (資料3)

【志水委員】

御嶽はくさいの地産地消について、一昨年度から木祖村直売所から出荷を要望されている。

生産者の減少・天候不順などの状況もあり今年度目標の40万ケースの達成は難しい。契約者への数量を確保することもあり直売所への今年度の提供はできない状況であることを理解願いたい。

鳥獣電気柵について、3～5年ほど前に開田高原でサル対策の柵について試験を実施したが結果を知りたい。総括した情報をもらいたい。

また、費用がどれほどかかるのか、それも確認してもらいたい。

【事務局】

重点取り組みに出荷ケース・出荷額の目標があるが、達成できないことについては志水委員のおっしゃるおりやむを得ない状況がある。

御嶽はくさいの地産地消については、今年度機械収穫試験で収穫した物をPRも兼ねて直売所へ配布し評価を確認したい。

平成22年から鳥獣被害防止総合対策交付金を国県と通じて各町村の協議会と相談しながら対応してきた。電気柵等の管理などソフト面の対応を木曾合庁では林務課と鳥獣被害対策チームで支援・対策を実施している。今後も支援を続ける。

開田の鳥獣電気柵については確認しお知らせしたい。

鳥獣の種類により対策が異なることから現地での試験を実施していきたい。

【志水委員】

えごまが鳥獣対策に効果があると聞いている。上松町はえごまを多く栽培しているが効果はい

かがか。

【二宮委員】

自宅近くの畑では、えごまへのイノシシ、サルの食害は無い。生育初めは来るがその後生育すると来ない。

【志水委員】

今年そばの周りにえごまを播種したがその効果を現在確認している。

【野口委員】

えごまを栽培しても外からソバが見える状態だと鳥獣は入る。えごまは山付きに栽培している。気象により収穫は大きく変わる。

【事務局】

試験要望がありましたら試験等支援チームで対応したい。

鳥獣対策は、匂いでの対策も含め食害されにくい試験の知見はあるがえごまが目的とする作物を守ることができるか評価は難しい。

県でも食害の少ない作物の調査はしているが作物を守る作付け品目の試験はされていない。

支援チームでできるだけ対応したい。

【田屋部会長】

鳥獣被害になるとサルが話題の中心になる。イノシシの被害は少なくなっている実感があるがいかかがか。

【志水委員】

コレラでかなりイノシシの頭数は減った感じがある。しかし少しずつ近頃増えている。

【塩澤委員】

重点取り組み4ですんきの生産拡大があるが現在販売先が無くて商品が余る状況、増産になってもその後の販売に結び付ける対策が必要ではないか。

今後、すんきの加工の許可（漬物としての扱い）が難しくなる事から生産拡大については許可が取れる対策も必要ではないか。

生産拡大で指導・支援してもらえるが生産許可についても支援をお願いしたい。

【事務局】

すんきの生産拡大については、計画策定時メディアに取り上げられ消費も増えると予想され計画を立てた経過がある。

現状需要が減っていることにより生産調整しているのは事務局も承知している。

今年度は、品質向上の指導に力を入れ、HACCP（ハサップ）等研修を開催している。今後も研修等を実施していく。

【田屋部会長】

すんきについてはGIも取得しており木曾の特産として地位を向上していきたい。

【事務局】

えごまの栽培については、今年度県の事業を使い南木曾町で栽培試験を実施している。

結果が出ましたら皆様に情報提供したい。オール木曾でよい品質のえごまの生産ができればよいと思う。

エ 全体討議（資料3）

【大久保委員】

中山間直払い、多面的機能支払いについては、地域の施設の維持等に役立っており今後も継続を望みます。

獣害対策には有効な手段が少ない状況で、近頃ニホンジカ、ツキノワグマを良く見かけるようになり、ニホンザルなども数が増えている様子である。水稻収穫後の「はざ」での食害もあり鳥獣被害が原因で離農する人もある。この点の支援をお願いしたい。

【奥牧委員】

資料4ページを見ると総農家数が減っている割には自給的農家の減少は少ない、農業委員会としては人・農地プランで担い手へ8割集積が国の目標であるが、木曾や中山間地域ではとんで

もない話である。木曾地域では受け手もなく、土地の荒廃化が進む。

資料3の重点取り組み1にもあるが移住・定住について、国の方針でも出されているが半農半X（エックス）が大切ではないか。

半Xになる冬場の就業先の確保が必要、畜産では良いが耕種農家では考える必要がある。

国も8割を見直しするとのこと、地元からも「半農半X兼業のすすめ」が必要ではないか。

重点取り組み6ですが、木曾地域は小川が多いことから個人で水車を回しバッテリーへ充電し使うシステムが出来たらよい。試験をしたらいかがか。

【黒内委員】

子牛の頭数については、今年牛舎を建て50頭位規模拡大した人もあり6頭の目標は達成できると思われる。

経営者の孫の就農の例もあり、他の産業より若い人は増えていくと思われる。

畜産クラスターは木祖村が立ち上げたときに、全域の取り組みを提案できれば早くから補助金がもらえたのではないか。

協議会は、木曾郡全体で立ち上げられたら良かったと思う。現在各地で立ち上げているとのことだが今後クラスター事業が無いと補助事業が受けられないことからその点について支援を求める。

過去ですが、食育で木曾牛を学校に提供した時、私の所にクレームが来た。使用した牛肉が木曾牛とことからクレームが来たのだと思うが今後は、食育であれば、きちんと肥育した肉を使用してもらいたい。食べておいしい、これから食べなくなる、本物を提供してもらいたい。

【塩澤委員】

最近田と畑をやめる人が多い。私たちみたいな若い世代が取り組まなければならないと思う。

田畑をやるにはどんなに小さくても機械が必要。新たに取り組むにも機械が必要。仲間が集まり共同で利用出来るように、仲間づくりが必要では。

若い人が農業に取り組むのは大変。若い人が挑戦して取り組めるような支援をお願いしたい。

農業に興味を持ち、感動してもらえる様な、小さい面積から取り組める機会を作るのが必要で「やってみよう」と思える小さな一歩から広げていくのが良いのでは。

重点取り組み6の観光資源について、あやめ公園と日義の滝などPRしたいのであればパンフレットなど作成しもっと周知するべきではないか。

【田屋部会長】

子供たちへの食育は非常に大切。JAでは学校へのバケツ稲、サツマイモ、トウモロコシ栽培など支援しているが就農へ直接結びつかない面もある。

【志水委員】

世代交代もあり、御嶽はくさいの品質が落ち着かない、安定しない状況である。品物が良くて御嶽はくさいであると思う。要望ですがJAと連携し農業農村支援センターで一步踏み込んだ技術向上支援をお願いしたい。JA技術員と連携し支援をお願いしたい。

世代交代や天候不順で技術が追い付いていない状況。木曾地域でお金の取れる品目は限られている中でハクサイ再構築3か年計画も今年で終了してしまう。

新規就農者や生産者が少しずつ増えている中、この方々が活動できるよう支援を望む。

夏場の栽培が難しい状況から高温対策に向けた品種について試験、検討へ向けた協力をしてほしい。

【田屋部会長】

野菜部会員の皆様の品質管理、選別は厳しく神経を使っている。御嶽はくさいの市場関係者の評価は高い。

市場からは木祖村、開田高原の高温下での品質維持を求められている状況である。

すぐには品種を検討するのは難しい、現在木曾では1日4000~5000ケース、佐久では35,000ケース~40,000ケース出ている状況。現在価格は低迷しており御嶽はくさい1100円/1ケース、佐久は600円程度と苦戦しており生産調整も他所ではしてきている。

市場の価格が生産者に還元できる状態ではない。小売りでは1/4カットで100円で販売され

ている。これが生産者に還元されるわけではない。生産者は苦勞していることを分かってもらいたい。

【田中委員】

重点活動1になるがコロナでステイホームが呼び掛けられており、全国的には移住に興味を持つ人が増えており移住コーナーへの問い合わせが増えている。

木曾地域への問い合わせはまだPR不足もあり少なめであるが実際問い合わせの移住相談では就農したい、木曾で何が作れるか問い合わせがある。

一番問い合わせが多いのは、長野県の推進している「農ある暮らし」について、都会でベランダで野菜を作っていた者が畑で作りたい、そのために移住をしたい方がいる。

なかなか住居に畑、家庭菜園クラスが付いているものが無い状況で紹介が難しい。

また、荒廃農地を借りられるよう紹介できればと思う。農業農村支援センターと12月に意見交換をし検討した経過もある。

木曾広域でも移住定住フェアを開催する際に農ある暮らしができるように紹介したい。

実際、農ある暮らしをしている方、農家の方に来てもらいPRしてみたい。

【富井委員】

農業委員初年目で研修を受けたとき、遊休農地と荒廃農地は紙一重であると勉強した。その時は何を言っているかよくわからなかった。

農地パトロールを実際行う中で、再生できない農地もあったが、トラクターが入れば再生できる遊休農地や、すぐに再生可能な農地もかなりあった。

王滝村は少子高齢化が進み田んぼをやめていく人も多いが、この7月の農業委員の審議で、Uターンで農業を始めた方1名、Iターンで就農した方が農地の利用権設定をし、王滝かぶの生産のために農地を借りる方も現れている。

このようなコロナの中では、田中委員の意見のとおり、重点取り組み1の定住促進の取り組みを空き家バンクなどの情報を農業委員・各町村と連携すれば、就農と定住促進ができるのではないか。

これからネット環境さえよければ仕事のできるような方たちが増えてくると予想されることから、住まいがあり農業ができる環境を町村、広域連合と連携し提言できればよい。

獣害対策については毎回泣いている。高い防護柵は景観が悪くなり気になるため、2段のイノシシのみの電気柵で対応しているが食害にあっている。

被害の少ない品目を考え、タカノツメ、トウガラシ、ボタンコショウ、コンニャクを作付け来年は花の栽培を考えている。

猟友会も高齢化で協力してくれてもうまくいかない状況もあり大きな課題。

電気柵設置には、村の補助制度があることから充実している。

しかし、近所のおばさんは自分の家の前の畑に電気柵の申請をしたが宅地のため補助が受けられなかったので自ら10数万円をかけ電気柵を設置した。農地を大切に思う気持ちに感動した。

【二宮委員】

重点取り組み4のふるさと納税への活用で、上松町加工所ではエゴマ油、みそ、赤かぶの漬物、ホウバ巻を返礼品としてネットで公表している。

協力隊のミッション「地域の観光資源の活用した特産品開発」で手掛けたもの。現在ネットでふるさと納税をしているがこれは協力隊が入ることで実現した。

昨年エゴマ油は常時売り切れていたが、コロナの影響で発酵食品が健康に良いとのことからエゴマ油よりも味噌の需要が伸びた。

ふるさと納税は、商品の発送、梱包等手間がかかるが費用に上乗せできるので商品のPRにも活用できることから、ふるさと納税はいろんな町村で活用できるのでは。

上松町では、地域おこし協力隊の木工部7人がふるさと納税の品を作り、去年は過去最高の1200万円の納税額をいただいている。

重点取り組み1について、地域おこし協力隊と連携したSNS等地域農業の魅力発信について、私も名古屋から移住する際名古屋で農業を学んだ。自分で食べる野菜は、自分たちで作りたいと

思い現在自分たちで食べる野菜は作っている。

若い人たちが興味を持つのは、自分たちで作る作物は化学肥料や農薬を使わないことを求めているのでは。

土の力、草の力を利用して取り組みたいと思う。安曇野市で有機農業の研修会があり参加したが全国から多くの人が学びに来ていた。

木曾ではこのような農業は難しいと思うが、農薬を使わない農家も活動している。

月一回のマーケットを木曾町で開催しオーガニックの野菜を販売しており、この野菜を利用したランチを月一回提供する取り組みをしている。

木曾以外の中津川や伊那等からこのマーケットを楽しみに参加する人も増えている。

このようなマーケットを活用し農業に興味を持つ人、移住を考えている方もこのような場で情報交換ができるのではないかと。2拠点居住でネットを活用した仕事もできるのでは。

農業委員でもあることから会議では、空き家バンクの情報から農地付きの案件がすぐに I ターン、U ターンの人に利用される状況。

木曾に住みすぐに販売農家になることは難しいが、自給的農家になりたい方は多いと思う。

【野口委員】

マイスター協会設立30年になる。毎年新しい会員を集めたいが、なかなか集まらない状況。安曇野でセミナーを開催したら参加者が20名ほどありそこで照会したらマイスターになる希望者が増えたと聞いている。

農産加工など楽しいセミナーを開催してマイスターになる人を増やしてもらいたい。

【田屋部会長】

皆さんから、非常に多くの、幅広い意見を頂戴した。

また、その意見を県の審議会の方へ報告をさせて頂きたい。

【事務局】

塩澤委員からご指摘がありました農業資産の件資料を求められましたが、県で作成した資料についてパンフレットを御配りし説明します。

農家や農業関係ではない一般県民に農業資産が分かるように PR しております。

本年度上田市にて、全国棚田フォーラムを開催する予定ですがその場でも PR を進めていきたい。

【田屋部会長】

ご熱心に審議を頂きまして誠にありがとうございます。御礼申し上げます。

これで議長を退任させて頂きます。

ご協力ありがとうございました。